

5月10日（土）

午前8時30分、中部国際空港、いわゆるセントレアに到着した。ここから無謀とも言えるウクライナへの旅がスタートしようとしていた。

そもそも僕がウクライナへ行こうと思ったきっかけは恥ずかしながら昨年の秋頃、ロシアンパブに飲みに行ったことから始まる。

そこにはロシア人よりウクライナ人が多く働いていた。そこでウクライナという国はどんな国なんだろう、と興味を持った。そしていろいろ調べていくうちに、これは面白い国だ、ここにちょっとしたチャンスが埋まっているのでは？と思い、行くことを決意した。

それでとりあえず厳しい冬を避け、一番気候のいいと言われる5月中旬を目標に下見に行こうと思い、準備をしてきた。ただ、ウクライナの友人がホテルの手配をしてくれるという言葉に甘えて、自分でホテルの部屋を予約しなかったのは失敗したと後で気付いたが。

セントレア到着してルフトハンザ航空のチェックインカウンターへ行き、チェックインを済ませようとした。今回の経路はセントレア→フランクフルト→ミュンヘン→キエフという乗り継ぎ経路だ。この経路が一番トランジットの時間が短く最短時間でキエフに到着するらしい。

海外旅行なんて10年振り3回目、しかも過去2回は韓国とグアムという日本語圏内と言ってもいいくらいな場所、もちろん乗り継ぎ経験なんて無い。てっきり大きなラゲッジは飛行機降りる度に回収し、また預けるものだと思っていたら、同じ航空会社だからなのか、目的地まで勝手に運んでくれるという。なんて便利なんだ、と思った。後で裏切られることを知らずに・・・

チェックインを済ませた後、セントレアで朝食をとろうと思い、ふらふらとたくさんお店のある方へ。その途中、旅行保険の自動販売機があり、思わず加入。カード会社の保険があるのだが、念には念をと思い加入してしまった。

喫茶店のようなところで朝食を摂り、その後、カード持っている人じゃないと入れないというラウンジでしばしくつろいだ。

そしていよいよ搭乗。相変わらず面倒なチェックがいっぱいあったが、そんなことより飛行機が嫌いな僕にとって雨の降るこの天候だけが気がかりだった。



離陸。意外と揺れは無く、難なく雲の上へ。思ったより快適だった。

機内では12時間という長時間のフライトの為か、機内食二回にスナックなんかが配られ、映画も3本ほど上映された。いろんな言語の吹き替えがあったので楽しめた。

そしていよいよフランクフルトに到着。ドイツの土地はカラフルだった。



空港は恐ろしく広い！とりあえず案内板を見ながらゲートを探す。しかし次のゲートまで遠い遠い。



やっとの思いでゲートを見つけた。案内を見ると予定より 30 分ほど次の飛行機が遅れるとのこと。



時間的余裕ができたところで次に僕が探すのは喫煙所。でも意外とすぐに見つかった。なんか温室みたいなところに人が鮭詰めに入っていた。そこに僕も割り込み久しぶりの一服。うまいなあ。。周りを見渡すとそこは人種の坩堝。やっぱりタバコは万国共通だね。

まだ少々時間があつたので免税店を巡ってみた。一応日本からタバコを用意はしてきたが、安ければ、と思ひ覗いてみたものの・・・高い！！ユーロ高のあおりでめっちゃめっちゃ

高い。弱冠凹みながら喫煙所に戻った。

次のミュンヘン行き飛行機のゲートが開き、機内へ入った。明らかに前の飛行機と違う。まあ大きさはちょっと小さくなったけど、その違いでは無く、東洋人と思われる人は全くいない。なんとなくドイツ人が多いような（ドイツ国内線だから当たり前だが・・・）気がした。僕の中で緊張が走った。なんせ僕の語学力は中高6年間で学んだ英語とここ4ヶ月ほど勉強したロシア語だけだからである。

フランクフルトを離陸、ミュンヘンへ到着。

ミュンヘン空港はフランクフルト空港より小さい規模だったが、なんか垢抜けたいい感じの空港だった。ゲートを見つけるのも結構楽に見つかり、予定通りのトランジットですぐに搭乗できた。

この飛行機はまた雰囲気が全く違う。聞こえてくる言葉は明らかにロシア語かウクライナ語。やけにみんな手荷物が多い。上のデッキに荷物を入れ、蓋を閉めるのにCAが苦労してたのが印象的。隣に座ったお婆さんがシートベルトを探していたのでとってあげたら「スパシーヴィ」と言ったのでウクライナに帰るんだな、なんて思いながらさらに緊張が込み上げてきた。

キエフ、ボリスポリ空港に到着した時には辺りはすっかり暗くなっていた。飛行機を出るとバスが迎えに来ていた。これまでの空港が全て直接空港内に入れるようになっていたためそこでウクライナに到着した実感が湧いてきた。遠くに見える『キイウ』（もちろんウクライナ語で書いてあるが）の黄色い文字がさらに緊張を増した。

バスで空港内に到着すると、すぐに入国チェックだった。とりあえずトイレに行き、すぐその前にオープンな喫煙所があったから一服し、たくさんの人が並ぶ最後尾へ付いた。が、何か見慣れぬものを皆パスポートと一緒に持っていたので確認すると、入国の際に何か記入しなければならない書類があるらしい。それを探し、英語の例をみながら一所懸命書いた。でもまだ決定していない事項・・・どこに滞在するのか・・・さて困った。まあいいやと思い、そのままパスポートコントロールへ突入。案の定そこを突っ込まれた。しようがないので思いつきで友人の住んでいるテルノピルと答え、事無きを得た。

パスポートコントロールを出て荷物が出てくるベルトコンベアのところに行き、僕のラゲッジが出てくるのを待った。ひたすら待った。そして誰もいなくなった。。

頭の中が「???'でいっぱいになった状態で、とりあえず空港の遺失物センターと思われるところに入っていった。つたない英語で訳を説明して問い合わせてもらった所、この書類を持って外のルフトハンザのカウンターへ行けとのこと。言うとおりに外に出たら

「MR.KANAMORI?」とおばちゃんに声をかけられた。そのおばちゃんがルフトハンザ航空の社員だったのは言うまでも無い。このおばちゃんが言うには、僕のラゲッジはまだフランクフルト空港にある・・・らしい。いきなりウクライナの洗礼を浴びた気分だった。明日の19時頃にホテルに届ける、と言っている・・・だが、この時点で僕はまだホテルが決まっていなかった。とりあえずウクライナの友人に電話、彼女と話しをしてもらった。そして明日正午頃にルフトハンザに電話することで決着した。

その後とりあえず両替と思い、二万円出してウクライナの通貨、グリブナに替えてもらったが、600 グリブナしかない。。両替の表を見ると \$ 100→460 グリブナ、¥1000→30 グリブナ・・・現在 \$ 1→¥103~4 なのにこの差は何?? と思いながらも替えちゃったものはしょうがない。救いは \$ 700 くらい米ドルを持ってきたことだった。

空港の出口でとりあえず一服していたら、空港名物(?)のタクシーのおっちゃんが近寄ってきた。「タクシー?」と聞かれたので、どこに行けばいいのか全くわからない僕はまた友人に電話。代わってもらった。どうやらフレチャーチクホテルというところらしい。ホテルまで 200 グリブナ。事前情報だと 300 グリブナだったのでちょっと得した気分。そして一路フロントガラスの割れた車の助手席に乗り込みホテルへ向かった。(ちなみにウクライナのタクシーは客が助手席に座る。韓国でもそうだったような。)

ホテルに到着したのはもう午前 1 時を回っていた。当然外は真っ暗。人通りはほとんどない。ホテルの狭い入り口に入り話をする。なんとか部屋は空いているとのこと。とりあえず 11 日までは宿が確保できた。

このフレチャーチクホテルは良く言えば歴史あるホテル、悪く言えばオンボロホテルだ。ごつい鍵をもらって部屋に行く際、マフィアっぽいゴツイお兄さんが部屋まで案内してくれた。部屋は 108 号室と 1 階かと思わせて、実は 2 階。しかもエレベーターで 3 階まで上がり、階段で 2 階まで降りるという状態。面倒臭い、と心底思った。

とりあえずもう疲れたので着替えが無いから裸で寝た。